



# 令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

1 . シームレスな拠点連結型国土の形成  
 多様な地域の拠点への諸機能の集約化を図りつつ、  
 デジタルを活用した場所や時間の制約を克服する多面的なネットワーク化により、様々な制約を乗り越えてシームレス（継ぎ目なく）につながり合う拠点連結型国土の形成をいう。①

※ 添削の前に問題文が少々理解できない部分があります。まず、国土計画ではなく国土形成計画です。また、「シームレスな拠点連結国土の形成について「シームレス」の概念について説明せよ」とありますが、「ついて」が2度出てきており、基本構想を説明するのか、シームレスを説明するのか分かりません。おそらく、令和2年度の過去問を参考に作成されていると思いますので、これを参考に「シームレス」の概念に触れて基本構想を説明するという問いと捉え添削します。

① 基本構想の説明に関しては、端的によくまとまっています。前述の「シームレス」の概念に触れてという条件がある場合であっても、シームレスがデジタルを徹底的に活用して場所や時間の制約を克服するという点にも触れているのでバッチリです。

2 . D X が 資 す る こ と ②  
 ( 1 ) インフラ分野の D X  
 インフラ建設現場（調査・測量、設計、施工）の生産性が飛躍的に向上し、安全性の向上、手続き等の効率化が実現できる。  
 ( 2 ) 道路 D X  
 「 x R O A D 」 を 加 速 す る こ と に よ り 、 道 路 管 理 や 行 政 手 続 き の 効 率 化 ・ 即 時 処 理 を す る こ と が で き る  
 ( 3 ) 防 災 ・ 減 災 D X  
 リスク情報の充実やオープンデータ化を図ること

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

よ	り	地	域	の	リ	ス	ク	に	対	す	る	一	層	の	理	解	を	促	進	さ	れ	る	。	
	ス	マ	ホ	で	作	成	し	た	マ	イ	・	タ	イ	ム	ラ	イ	ン	等	を	活	用	し	た	
リ	ス	ク	コ	ミ	ュ	ニ	ケ	ー	シ	ョ	ン	や	個	々	人	に	向	け	た	防	災	情	報	
の	プ	ッ	シ	ュ	型	配	信	に	よ	り	、	適	切	な	避	難	行	動	が	で	き	る	。	
(	4	)	観	光	D	X																		
	シ	ー	ム	レ	ス	に	宿	泊	、	交	通	、	体	験	等	に	係	る	予	約	・	決	済	
が	可	能	と	な	る	地	域	サ	イ	ト	構	築	に	よ	り	、	旅	行	者	の	利	便	性	
向	上	・	消	費	拡	大	が	見	込	ま	れ	る	。										以	上

② 例示に示されているのは DX の効果ですが、基本構想との関係が分かりません。選択科目Ⅱ－1 は、知識を問う問題なので国土形成計画にある記述内容（以下の内容）が最も正解に近いと考えます。そうすると、基本構想にあるデジタルを活用して時間と場所を克服することを述べなければなりません。概念同様、端的にまとめると良いでしょう。

「こうしたデジタル活用の特性を国土づくりに活かし、デジタルを手段として徹底活用して、リアルな地域空間の質的な向上を図る観点から、いわば「デジタルとリアルの融合」による活力ある国土づくりを目指し、場所と時間の制約を越え、多様な暮らし方や働き方を自由に選択できる地域社会の形成を通じて、個人と社会全体の Well-being の向上を図る。デジタル活用は、地域経営の仕組みそのものにも大きな変化を及ぼす。デジタルの発想では、官民の様々なデータを活用するデータ連携基盤をベースとして、データやそれを解析するツールをレイヤー化(階層化)して捉えた上で、それらを柔軟に組み合わせることで、生活者・利用者が必要とするサービスに対し、分野ごと、主体ごとに課題を処理・解決することが必然的に求められる。その結果、デジタル活用によってリアルの空間とバーチャルの空間を組み合わせることによって、分野や主体の垣根を越えて課題解決のツールが一定程度共有化されるとともに、複合的な課題を効率的・効果的に解決することが可能となる。こうしたデジタル活用の効果を最大限発揮するためには、分野横断・官民連携を前提とした地域経営の仕組みに転換していく必要がある。」